



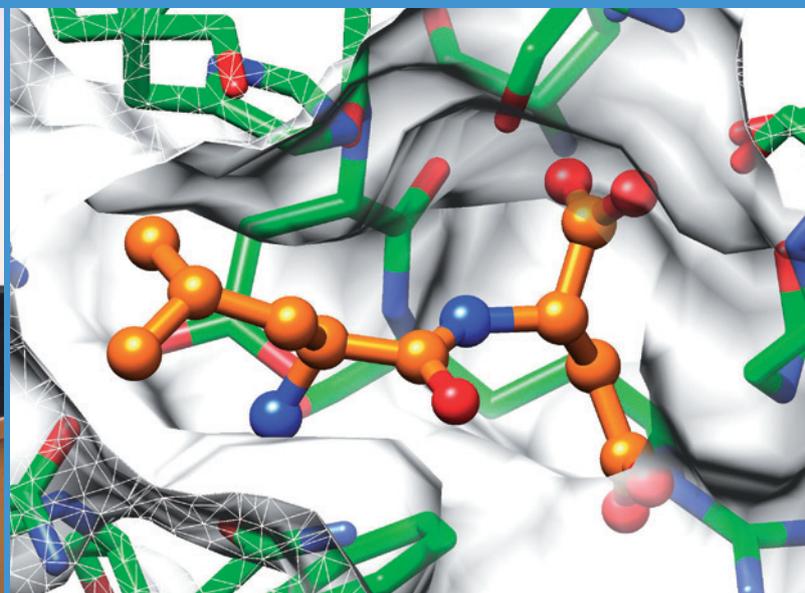
平成 27 年度高度看護研修センター  
認定看護師教育課程開講式 (P 6)



ウェルかむ 2015  
「おくりたい 未来の自分に きれいな歯」 (P 7)



いわて東北メディカル・メガバンク機構が  
世界初の医療用家系図作成ソフトを開発 (P 8)



宇宙で作った高品質な結晶で、歯周病原菌の生育に  
重要なペプチド分解酵素 DPP11 の立体構造を解明 (P 8)

6月のトピックス



主な内容

- 巻頭言——花巻温泉病院長就任ご挨拶  
看護部長就任ご挨拶 ～拡張する組織を目指して～
- 平成26年度決算
- トピックス——ウェルかむ2015が行われました
- フリーページ——すこやかスポット医学講座  
「肥満2型糖尿病に対する外科治療」

## 花巻温泉病院長就任ご挨拶

附属花巻温泉病院長

**一戸 貞文**

(整形外科学講座 教授)



岩手医科大学の皆様、関係者の皆様におかれましては常日頃からご教示、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

この度、平成27年4月1日付けで附属花巻温泉病院長を拝命いたしました。浅学菲才の身ではありますが、皆様にご指導いただきながら重責を果たすべく努力いたしたいと存じます。

猪又前病院長の下で1年間と短い期間ではありましたが、副院長として貴重な経験をさせていただきました。前院長の方針を引き継ぎ、できるかぎり地域医療に貢献することを目指していきたくと考えております。

当院の概要を簡単に説明いたします。当院は花巻市の西側、台温泉と花巻温泉郷の中間に位置しております。戦前に傷痍軍人花巻温泉病院として設立され、戦後国立療養所花巻温泉病院として運用されてきました。国立病院・療養所の再編計画により建物は岩手医科大学に譲渡となり1993年7月から岩手医科大学附属花巻温泉病院として開院しております。病床数は150床、職員は113名と規模は大きくありませんが、温泉施設を利用したりハビリ棟をもち、急性期からリハビリまで一貫した治療を行える数少ない病院であります。しかしながら、開設当初に整備された施設、診療機器の老朽化が進んでおり、今後の改修、整備が今後の診療体制を維持する上での重要

な課題となっております。

開設当初は附属病院の後送施設としての役割が大きかったと存じますが、現在では比較的高度な専門性を持つ地域医療の拠点病院としての位置づけが浸透し、花巻市内はもとより沿岸、一関方面からも患者さんが来院される状況となっております。幸い、本院との交流、常勤医の出身教室のご援助とご指導により今まで大過なく診療を続けており、応援をいただいている本院の各講座には深く感謝申し上げます。

スタッフの頑張りもあり、癌リハビリの認定施設を昨年取得し、医療安全2の加算も今年から取得できました。検査室は検査精度が高いとのことで何回か表彰を受けております。以上、当院の置かれた立場をわきまえながら高度な専門性を持った地域医療をめざして診療にあたっていく所存でございます。

今後、地域の皆様に安心して安全な治療が受けられる環境を整えて病院の機能を最大限発揮するため、ぜひ皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻を切に願ひ申し上げ就任のあいさつとさせていただきます。

## 看護部長就任ご挨拶 ～拡張する組織を目指して～

看護部長  
三浦 幸枝



この度、4月1日付をもちまして、看護部長を拝命いたしました。歴代の看護部長のご努力により、築き上げられた看護部を引き継ぎ、さらに発展させていくことへの重責を日々、実感しております。及川前看護部長は「教育は組織の財産になる」と技術と知識だけでなく、患者さんの人間性、痛みや苦しみの理解、幅広い豊かな見識をもった看護師の人的資源の形成に尽力下さいました。私の使命は前部長の思いを継承し、看護部の理念「やさしさと思いやりの心、倫理観」を基軸に組織づくりに取り組んでまいりたいと思いますので何卒よろしくごお願い申し上げます。

昨年度は、病院長より看護部にベッドコントロールの権限を委譲され、外来看護師長と共に有効な病床管理を目指し努力してまいりました。4月からは、地域医療連携センターに看護師長と主任看護師を配置しベッドコントロールを看護部主導で行なうためのシステム構築に取り組んでおります。他職種・各部門と協働しながら、空床は「院長床」という意識へ職員全体が変わるようにバックアップし、退院支援や地域連携に力を入れ経営に参画して参りたいと考えております。

看護師は、在宅でも医療現場でも24時間患者のそばにいる職種です。看護の領域である生活状況を含めて多角的に患者さんを捉え発言できる立場にいます。また、患者さんや多

職種と接点が多い職種であり、チーム医療のキーパーソンとしても看護師に寄せられる期待が大きくなっています。本年10月からは、高度看護研修センターで看護師の特定行為研修「創傷管理関連」が実施される予定です。研修機関の申請の際には、多くの部署、諸先生方のご協力をいただきました。実施にあたりましては、先生方の更なる協力が必要となります。何卒よろしくごお願いいたします。「患者さん中心の医療の価値」が共有され、新たなチーム医療のあり方を岩手から発信できるように努力してまいりたいと思います。

1号館3階の大会議室の壁には後藤新平の「宇宙はこの手にあり、萬化はこの身に存す」という直筆の書が掲げられています。「萬化」の文字がひときわ大きく書かれており、書を見るたびに、今までの自分にとらわれず常に新しいものの見方を手に入れ、進めと背中を押されている気が致します。看護部は、約1,300名と病院職員の4割強を占める最大部門です。看護部の良し悪しが病院組織へ及ぼす影響が大変大きいことを肝に銘じ、まず、看護部門の管理責任を果たしていきたく思っております。今後ともご指導ご協力を宜しくごお願い申し上げます。

# 学校法人岩手医科大学

## 平成26年度決算

消費税増税や建築資材などの高騰が、附属病院移転計画を含む本学の経営に大きな影響を及ぼしている中、財政基盤の更なる強化に努めなければなりません。

このような環境下において、本学は教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しています。創立120周年記念事業関係では矢巾新病院のエネルギーセン

ター棟建設に着工するなどし、また、医療関係では病院各種機器の整備などを行いました。

平成26年度消費収支決算は、医療収入などが増加しましたが、一方、人件費や医療経費及び業務委託費などの諸経費の増加に加え消費税の増税により、21億6,333万円の支出超過額を計上しました。

### 1. 消費収支の概要

#### (1) 消費収入

消費収入の合計額461億5,288万円は、前年度比16億681万円(3.6%)増加、予算比では5億8,764万円(1.26%)下回りました。

- ①学生生徒等納付金82億9,152万円は、前年度比1億5,026万円(1.8%)増加しました。主な増加要因は、医学部定員増の学年進行によるものです。
- ②医療収入331億4,063万円は、前年度比9億4,962万円(3.0%)増加しました。附属病院医科の医療収入は、前年度比9億811万円(3.7%)の増加、歯科医療センターは1,160万円(1.0%)の減少、循環器医療センターは1億5,208万円(3.2%)の増加、花巻温泉病院は8,121万円(5.5%)の減少、PET・リニアック先端医療センターは1,776万円(4.9%)の減少となりました。
- ③補助金合計額は、50億507万円で前年度比5,252万円(1.1%)増加しました。私立大学等経常費補助金22億5,533万円は、前年度比1億480万円(4.9%)増加、その他の国庫補助金は、次世代医療研究開発拠点形成事業費補助金(いわて東北メディカル・メガバンク機構)10億124万円、医師臨床研修費補助金1,373万円、歯科医師臨床研修費補助金3,216万円等で合計12億676万円となり、前年度比2億7,833万円(18.7%)減少しました。また、地方公共団体補助金は、革新的医療機器等開発事業補助金3億4,229万円、高度救命救急センター運営費補助金2億5,619万円等で合計15億4,249万円となり、前年度比2億2,554万円(17.1%)増加しました。

#### (2) 消費支出

消費支出の合計額483億1,621万円は、前年度比18億5,278万円(4.0%)増加、予算比では5億5,867万円(1.2%)上回りました。

- ①人件費212億6,923万円は、前年度比4億1,525万円(2.0%)増加しました。給与、賞与、所定福利費の合計

191億8,986万円は、前年度比4億3,218万円(2.3%)増加し、退職金と退職給与引当金繰入額、退職給与引当金特別繰入額の合計20億4,852万円は、前年度比1,691万円(0.8%)減少しました。

- ②医療経費138億2,398万円は、前年度比8億1,994万円(6.3%)増加しました。医薬品費は、前年度比4億3,340万円(6.2%)の増加、医療材料費は3億8,367万円(6.6%)の増加、給食材料費は287万円(1.3%)増加しました。医療収入に対する医療経費割合は41.7%となり、前年度の40.4%を1.3%上回りました。
- ③光熱水費は、重油料3億6,150万円、ガス料2,356万円、電気料6億6,933万円、水道料1億9,151万円、合計12億4,590万円となり前年度比5,389万円(4.5%)増加しました。
- ④修繕費は、施設修繕費2億3,351万円、機器備品修繕費1億8,820万円、合計4億2,171万円となり前年度比6,944万円(14.1%)減少しました。
- ⑤消耗品費11億6,273万円は、前年度比1億394万円(9.8%)増加しました。
- ⑥業務委託費38億4,234万円は、前年度比4億7,898万円(14.2%)増加しました。部門別では、附属病院医科18億1,090万円、歯科医療センター1億529万円、循環器医療センター3億3,408万円、花巻温泉病院1億4,443万円、その他14億4,764万円です。
- ⑦公租公課1億4,998万円は、消費税1億860万円、法人税1,905万円、事業税950万円、固定資産税・都市計画税1,030万円等です。
- ⑧福利費1億9,475万円は、学生福利費2,839万円、職員福利費1億6,636万円であり、健康診断経費等です。
- ⑨減価償却額36億5,236万円は、前年度より3,768万円減少しました。
- ⑩資産処分差額2億8,880万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

# 1. 資本収支の概要

## (1) 資産の部

- ①土地関係は、日本赤十字社の内丸地区敷地取得により1億5,800万円増加し、前九年土地の一部売却により3億2,219万円減少しました。
- ②施設関係は、建物8,347万円、建設仮勘定6億9,095万円です。
- ③設備関係13億5,841万円は、教育研究用機器備品13億465万円等です。
- ④施設拡充引当特定資産は、45億円を積み立て、8億5,676万円を取り崩しました。
- ⑤貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料4億4,558万円、歯科貴金属773万円、合計4億5,331万円です。

## (2) 負債、基本金、消費収支差額の部

- ①退職給与引当金残高88億4,297万円のうち32億7,236万円は、平成23年度から10年間毎年度均等に繰り入れている退職給与引当金特別繰入額の累積額です。
- ②前受金残高15億5,412万円は、平成27年度入学生の学生生徒等納付金等です。
- ③預り金残高6億124万円は、源泉所得税5,006万円、県市町村住民税9,840万円、私学共済掛金1億1,872万円等です。
- ④基本金は50億6,317万円を組入れし、1,056億7,588万円となりました。
- ⑤消費支出超過額21億6,333万円と前年度繰越消費支出超過額192億1,261万円を合計した翌年度繰越消費支出超過額は、213億7,594万円となりました。
- ⑥自己資金(基本金+翌年度繰越消費支出超過額)は、前年度より28億9,984万円増加し、842億9,994万円となりました。

### 平成26年度 消費収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	8,291,520	人件費	21,269,225
手数料	249,969	医療経費	13,823,981
医療収入	33,140,633	消耗品費	1,162,729
寄付金	2,247,719	光熱水費	1,245,903
補助金	5,005,074	修繕費	421,711
資産運用収入	224,232	業務委託費	3,842,343
事業収入	1,355,963	福利費	194,752
雑収入	700,935	減価償却額	3,652,363
帰属収入合計	51,216,045	資産処分差額	288,799
基本金組入額合計	△ 5,063,166	その他の経費	2,414,402
消費収入の部合計	46,152,879	消費支出の部合計	48,316,208
当年度消費支出超過額	2,163,329		

### 平成26年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,291,520	人件費支出	20,356,329
手数料収入	249,969	諸経費支出	22,815,324
寄付金収入	2,166,092	施設関係支出	932,420
補助金収入	5,005,074	設備関係支出	1,358,407
資産運用収入	224,232	資産運用支出	4,501,531
資産売却収入	300,000	その他の支出	4,706,368
事業収入	1,355,963	資金支出調整勘定	△ 3,396,703
医療収入	33,140,633	次年度繰越支払資金	15,835,439
雑収入	700,935		
前受金収入	1,554,119		
その他の収入	8,934,607		
資金収入調整勘定	△ 9,593,937		
前年度繰越支払資金	14,779,908		
収入の部合計	67,109,115	支出の部合計	67,109,115

### 貸借対照表 (平成27年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	74,258,281	固定負債	9,423,028
有形固定資産	53,694,791	流動負債	5,053,872
その他の固定資産	20,563,490	負債の部合計	14,476,900
流動資産	24,518,561	基本金	105,675,883
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 21,375,941
資産の部合計	98,776,842	負債・基本金・消費収支差額の部合計	98,776,842

## 田老ふれあいライブにて吹奏楽サークルとからあげ同好会が慰問活動を行いました

5月31日（日）、岩手県臨床心理士会などが中心となり、グリーンピア三陸みやこ内の仮設住宅集落に住む方々への支援活動として企画された「田老ふれあいライブ」が行われ、吹奏楽サークルとからあげ同好会が慰問活動を行いました。



から揚げの振る舞い

当日は、来場者からからあげ同好会が作ったから揚げの振る舞いが行われた他、吹奏楽サークルによるジャズの演奏が行われました。「My Favorite Things」「茶色の小瓶」などのナンバーが披露され、来場者から大きな拍手が寄せられました。



吹奏楽サークルによる演奏

吹奏楽サークルは、「住友商事東日本再生ユース・チャレンジ・プログラム-活動・助成研究-2015年度」の助成を受けて活動しています。

### からあげ同好会について

大好きなからあげの追求を通して、年齢を重ねても身体に負担なく好きなものを食べ続けることができるような方法を模索し、食を通じたQOLの向上を目的とする同好会。

## 平成27年度高度看護研修センター認定看護師教育課程開講式が行われました

6月2日（火）、創立60周年記念館8階研修室にて、附属病院高度看護研修センター認定看護師教育課程（緩和ケア分野）開講式が行われました。

式では寺山センター長より「がん治療に関わる看護師の役割や専門性が高まっており、今後も増々期待されている。一日も早くチームの一員として患者さんの心の支えになっていただきたい。」と式辞があり、続いて酒井病院院長より「がん診療において、看護師は心身両面の支えであり、高い医療倫理も求められる。研修を経て、指導者としても活躍してほしい。」と挨拶がありました。

その後、研修生22名を代表して伊藤 千絵さんより「最新の知識と技術を習得し、エビデンスに基づいた水準の高い看護実践力を養うとともに、看護観や生死観を培い、心と心が通じ合うコミュニケーションスキルを身につけたい」と宣誓が行われました。



寺山センター長 式辞

## いわて東北メディカル・メガバンク機構が健康調査結果に係る記者会見を行いました

いわて東北メディカル・メガバンク機構では、被災地域の医療復興のため、医師派遣や健康調査等を通じた住民の健康意識の向上を目指して活動しておりますが、この度、平成25年度に岩手県の沿岸地域を中心とした市町村で健康調査に参加された方の血液・尿検査やアンケート調査結果の分析を行いました。

6月3日（水）には、創立60周年記念館10階会議室にて記者会見が行われ、祖父江機構長、人見副機構長、坂田臨床研究・疫学研究部門長、同 副部門長丹野准教授が分析結果を発表し、丹野副部門長からは「心理的苦痛を抱える住民の割合が全国統計と比べて高い可能性があることが分かった。今後も詳細な分析を進めていきたい」との説明がありました。



記者会見を行う祖父江機構長ら

## ウェルかむ2015が行われました

6月5日(金)、歯科医療センターにて、歯と口の衛生週間にちなんだイベント「ウェルかむ2015～おくりたい 未来の自分に きれいな歯～」が行われました。

会場には、口腔がんなどに関するパネル展示等を行う情報提供コーナー、フッ素入り歯磨き粉を体験するコーナー、歯に良い料理の試食コーナーなどが設けられ、大勢の来場者で賑わいました。

また、同日、「お口の健康セミナー」が開催され、お口の病気・治療法・予防法について多くの方に情報を発信する機会となりました。



歯に良い料理の試食コーナー

## 平成27年度教養教育センター 野外活動が行われました

6月6日(土)、八幡平市安比高原にて、平成27年度教養教育センター野外活動が行われ、3学部第1学年の学生及び教職員が参加しました。

この野外活動は、野外で自然に親しむとともに、学友や教職員との交流を深めることを目的として毎年行われているものです。

学生は、ブナの森探索、そば打ち体験、牧場の釣場体験などを体験し、大自然に親しむとともに、学友や教職員との交流を深めていました。



写真上：そば打ち体験 写真下：ブナの森探索

## 内丸地区跡地活用を考えるワークショップが行われました

6月8日(月)、創立60周年記念館10階同窓会室にて、内丸地区の附属病院移転跡地活用計画に係る岩手県・盛岡市・盛岡商工会議所・本学からなる4者連絡会主催の「附属病院跡地を活用したまちづくりを考えるワークショップ」が開催されました。

岩手医科大学移転後の跡地は、盛岡市中心市街地の空洞化の抑止、県都盛岡の活性化のために、非常に重要な場所であるとの共通認識の下、産学官が一体となってその活用方法を検討していくこととしており、本ワークショップはその一環として行われました。

盛岡市の藤島都市整備部長が進行役となり、「内丸地区の長所と課題は何か」をテーマに、各機関・団体から選出された職員が、附属病院跡地の活用方法について、積極的な意見交換を行いました。ワークショップは今後も継続して開催される予定です。



グループワークの様子

## ライオンズクラブ国際協会様から本学眼科銀行に寄付金が贈呈されました

6月12日(金)、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナー吉田 昭夫 様が来学し、本学眼科銀行(総裁:小川彰学長)に1,623,060円を寄付され、小川学長から感謝状が贈呈されました。

同協会から毎年いただいている寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。ここにライオンズクラブ国際協会様には、心から御礼申し上げます。



左から：横山眼科学講座助教、小川学長、吉田ガバナー

## いわて東北メディカル・メガバンク機構が世界初の医療用家系図作成ソフト開発に係る記者会見を行いました

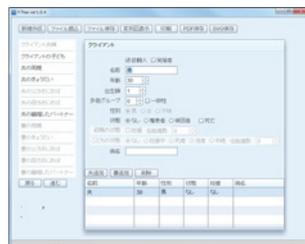
この度、いわて東北メディカル・メガバンク機構では、遺伝学の専門知識がなくても短時間で容易に医療用家系図を作成できる世界初のPCソフトウェア及びアプリ「f-tree」を開発しました。

医療用家系図は正確な遺伝学的診断と遺伝性疾患の発症前診断や予防、予後の推定等に用いるため、専門知識と多くの労力・時間を要し、直接的な聞き取りを行って手作業で作成しておりました。「f-tree」は問診票にある必要事項をPCやタブレットに入力するだけで完成度の高い家系図を自動的に作成することができます。

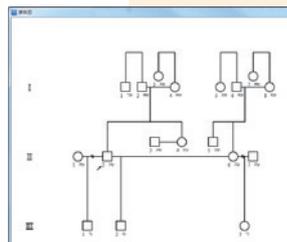
臨床現場をはじめゲノムコホート研究や教育現場への普及の他、一般社会における遺伝の正しい知識に活用されることが期待されます。

6月17日（水）には、記者会見を行い祖父江機構長と人見副機構長の他、開発に携わった臨床遺伝学科福島教授らが「f-tree」の説明を行いました。

「f-tree」は<http://iwate-megabank.org/genetic/>からダウンロードすることができます。



年齢、家族構成、罹患状態等を入力



「f-tree」を用いた医療用家系図の作成イメージ

## アメリカ・フリモント町の中高生がドクターヘリを見学しました

6月24日（水）、アメリカ合衆国ミシガン州フリモント町の中高生8名が、矢巾町の友好都市フリモント町からの招聘団を受け入れる国際交流事業の一環として、矢巾キャンパス附属病院移転用地内ドクターヘリ基地ヘリポートの施設見学をしました。

山田 裕彦 救急医学講座特任准教授からドクターヘリについて説明が行われた後、生徒たちはヘリの中に入り見学し、とても興味深そうに機内の装置などに触れていました。



ドクターヘリの説明を行う山田特任准教授（写真奥）

プレス  
リリース

## 宇宙で作った高品質な結晶で、歯周病原菌の生育に重要なペプチド分解酵素DPP11の立体構造を解明

本学構造生物薬学講座 阪本泰光 助教と昭和大学薬学部の田中信忠 准教授、長岡技術科学大学工学部の小笠原涉 准教授、宇宙航空研究開発機構（JAXA）太田和敬 主任開発員らの研究グループは、国際宇宙ステーション・「きぼう」日本実験棟での高品質タンパク質結晶生成宇宙実験を通じて、世界で初めて、歯周病原菌の生育に重要なペプチド分解酵素DPP11の詳細な立体構造を明らかにしました。

得られた構造から、歯周病原菌がDPP11を使って、病原菌の外側から取り込んだエネルギー源をどのようにして吸収できる形に変換しているかを解明し、歯周病の治療薬開発につながる重要な知見を得ました。

この研究成果を通じて、歯周病原菌だけでなく、タンパク質やペプチドを栄養源とする糖非発酵性病原菌に対する新たな抗菌薬開発の進展も期待できます。

※DPP11：歯周病原菌が作り出すペプチド分解酵素

本研究成果は、6月9日に「Scientific Reports」(Nature Publishing Group)に掲載されました。



大学院生に指導を行う阪本助教

実際に宇宙で結晶化したタンパク質





## 図書館事務室 芳賀 真理子 室長に盛岡東警察署から感謝状が贈呈されました

6月5日（金）、盛岡市の道路側溝に男性が自転車で転落した事故で人命救助したとして、芳賀図書館事務室長に盛岡東警察署から感謝状が贈られました。

この事故は5月11日（月）、盛岡市下米内で、自転車を運転していた男性が道路側溝に落ちたものです。近くを通りかかった芳賀室長は、異常な音を聞きつけ、道路側溝に落ちている負傷者を発見し、直ちに応急の救護措置を行うとともに、救急車を手配して救助しました。

負傷者は高齢の男性で頭蓋骨骨折等の重傷を負っており、芳賀室長の迅速的確な救助措置がなければ人命に関わる重大な事態になっていました。



## 薬剤部 二瓶 哲 薬剤師が日本病院薬剤師会東北ブロック第5回学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました

この度、日本病院薬剤師会東北ブロック第5回学術大会（平成27年6月6日～7日；山形市）におきまして、二瓶哲薬剤師の演題「化学療法による口腔粘膜炎に対するマーズレンS配合顆粒の有効性に関する前向き研究」が優秀ポスター賞を受賞しました。

研究成果は、がん化学療法の副作用として多くの患者が苦しみ、予防策が乏しいなかでグルタミンおよびアズレンを含む製剤を予防的に使用することで症状発現を抑制することを臨床的に証明したものです。また、薬剤師が倫理委員会の審査を経て、前向き研究を立案し、実行したことも高く評価されました。がん化学療法の副作用対策は、未解決な問題が多いものです。これらに対して今後も、薬剤師が前向き臨床研究を推進してゆくことが期待されます。

（文責：薬剤部 佐藤 淳也）



## 微生物薬品創薬学講座 奥 裕介 助教が日本がん分子標的治療学会第19回学術集会でポスター賞を受賞しました

この度、日本がん分子標的治療学会第19回学術集会（平成27年6月10日～12日、松山市）にて、演題「YAP・TAZがん遺伝子産物の機能を阻害する化合物の探索」に対してポスター賞を受賞しました。

YAP・TAZは、数多くのがんの増殖や悪性化に働くことが知られている転写活性化因子です。これらの機能はHippo経路と呼ばれるシグナル伝達系によって負に制御されています。本研究では、YAP・TAZの核移行を阻害する化合物として、既存医薬品であるdasatinib, fluvastatin, pazopanibを同定しました。これらは、Hippo経路を活性化すること、YAP/TAZに依存した増殖を示す乳がん細胞の増殖を抑制することを見出しました。また、YAP・TAZの分解を誘導する化合物を簡便に評価するスクリーニング系として、split luciferase assay法を用いたYAPのユビキチン化の評価系の構築を行いました。今後、本系を用いた化合物のスクリーニングを計画しています。

本研究は上原至雅教授、西谷直之講師にご指導を賜りました。また、微生物薬品創薬学講座の学生とスタッフに感謝申し上げます。

（文責：奥 裕介）



# シリーズ 職場めぐり

## 内科学講座 心血管・腎・内分泌内科

平成20年4月の講座再編に伴い、内科学第二講座から循環器・腎・内分泌内科分野へ科名が変更となり、さらに平成23年10月には、心血管・腎・内分泌内科分野（中村元行教授）と、循環器内科分野（森野禎浩教授）の2科となりました。

当科の診療範囲は、循環器疾患（救急医療を含む）、不整脈疾患、血管疾患、内分泌疾患、腎疾患と広範囲で、本院と循環器医療センターと高度救命救急センターでの診療、さらに盛岡市内や岩手県内のみならず隣県各地に関連病院があり診療連携を密にしております。連携を重視し迅速かつ正確な診断と時期を逸さない適切な治療をめざし、専門に偏らず幅広い診療を目標に行っております。高度先進医療を推進しつつ、医療の基本を認識して全身管理を行えるGeneral Physicianの育成を目指し、研究・診療・

教育に日々励んでおります。何か困ったことや、相談がある時は、お気軽に声をかけて下さい。

（講師 安孫子 明彦）



## 歯科保存学講座 歯周療法学分野

歯周療法学分野は、4月から常任研究員、研修生各1名が加わり、八重柏教授をはじめとする教員7名、大学院生3名、研究員5名、研修生11名の合計26名のスタッフで新年度をスタートしました。

歯周病は、「日本国民の8割が罹患している病気」で、特徴的なのが、「痛みが無く進行する病気」ということです。病気の進行にともない歯周組織の破壊が進み、気づいたら歯がグラグラ揺れ、抜ける、という恐ろしい病気です。最近では、口腔内のみならず、呼吸器疾患、糖尿病、骨粗鬆症、血管障害、早産・低体重児出産等の「全身疾患と歯周病の関係」が数多く報告されています。当分野はそのメカニズムを解明するべく、「歯周病原細菌と全身疾患」の関係を基礎研究、臨床研究の両面から多角的に解析しています。特に歯周病と密接な関係があると言われてい

糖尿病に関しては、本学糖尿病・代謝内科分野とも臨床面を中心に連携をとり、医学・歯学の新たな展開を試みています。

（講師 佐々木 大輔）



## 薬剤部（調剤・製剤部門）

調剤・製剤部門は、調剤室、製剤室の2部署で構成され、調剤、服薬指導、院内製剤の調製、抗がん剤の調製および患者指導などを行っています。

調剤室は、薬剤師が処方内容について薬歴や検査データ等から相互作用や重複投与のチェック後、調剤を行います。また、医薬品を適正に使用していただくために、薬袋に医薬品名やピクトグラム（絵文字）を表示し、外来窓口では吸入薬などの実技指導や服薬指導、患者さんからの薬に関する相談への対応を行っています。

製剤室では、患者さん個々の病態に対応するために院内製剤の調製を行うほか、抗がん剤の無菌調製を行っています。がん化学療法においては、専門性の高い薬剤師を配置し、レジメン管理、副作用モニタリングや支持療法等の処方提案、患者指導など他のスタッフと協働しながら、質の高いがん薬物療法を提供しています。

常に良質な医療を提供することを心がけ、様々な視点から医薬品の適正使用推進に貢献したいと思います。

（薬剤長 岩淵 修）



120th  
NEWS

## 120周年記念名刺テンプレートを作成しました

この度、創立120周年記念ロゴマーク・スローガンを活用した名刺テンプレートを作成しました。  
3タイプ用意しておりますので、ご自由にお選びご利用ください。発注は用度課経由でお願いします。

タイプA



タイプB



タイプC



### 《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 菊池 初子  
影山 雄太 江刺家和恵  
松政 正俊 佐々木さき子  
齋野 朝幸 米澤 裕司  
小山 薫 佐々木忠司  
藤本 康之 畠山 正充  
佐藤 仁 大須賀志穂  
成田 欣弥 武藤千恵子  
山尾 寿子 野里三津子

### 編集後記

大暑の候、お見舞い申し上げます。各地区で夕暮れ時、太鼓や笛が鳴り響き、矢巾キャンパス体育館においても、さんさ踊り部の練習に熱が入る時節となりました。

三ツ石神社で鬼の退散を喜んだ里人らが「さんさ、さんさ」と感謝の真心を捧げて踊ったのが始まりといわれているそうです。

大雨、台風、火山性微動、熱中症など、私達は自然を知り、環境とともに生きる姿勢が問われているのかとも感じています。

(編集委員 小山 薫)

### 岩手医科大学報 第466号

発行年月日 平成27年7月31日  
発行者 学長 小川 彰  
編集 岩手医科大学報編集委員会  
事務局 企画部 企画調整課  
盛岡市内丸19-1  
TEL. 019-651-5111 (内線7023)  
FAX. 019-624-1231  
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7  
TEL. 019-623-4256  
E-mail: office@kahoku-ipm.jp



## 肥満2型糖尿病に対する外科治療

世界において肥満人口は急増しており、2013年には高度肥満症に対して468,609件の肥満外科手術が実施されています。肥満外科手術は、体重減少に加えて糖尿病、脂質異常症、高血圧などの肥満関連健康障害の改善効果が高く、最近ではメタボリック手術とも呼ばれるようになりました。わが国では2014年4月から、内科治療を行ったにもかかわらず有意な体重減少および肥満関連健康障害の改善が認められないBMI  $\geq 35\text{kg/m}^2$ の患者に対して腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（LSG）が保険診療に収載されました。LSGは、胃大彎側を約85%切除し、胃を袖状の胃管に形成する食物摂取制限手術で、わが国では約70%がこの術式になります（図1）。

国際糖尿病連合によると、世界の糖尿病人口は3億8,200万人で、どの国でも増加傾向と報告されています。わが国の2012年国民健康・栄養調査結果によると、950万人の成人が糖尿病もしくは糖尿病が強く疑われている者と報告され、深刻な問題となっています。糖尿病治療

としては、食事、運動、行動、薬物療法が主体ですが、高度肥満を伴う患者では血糖管理が困難で、糖尿病合併症の長期リスクの軽減を目的とした治療ゴールが得られない患者も多いのが現状です。最近、肥満外科手術が2型糖尿病（T2DM）を術後早期に改善することが多数報告されていますが、当科でも高度肥満を伴うT2DM患者32名にLSGを施行し、良好な成績を得ています。T2DMに対するLSGの効果は、術後1か月で完全寛解（HbA1c  $< 6.0\%$ ・空腹時血糖  $< 100\text{mg/dL}$ ・糖尿病治療薬からの離脱）47%、部分寛解（HbA1c  $< 6.5\%$ ・空腹時血糖  $< 126\text{mg/dL}$ ）22%、術前より改善31%と驚くべき成績でした（図2）。最近の論文では、T2DMの効果について“cure”という用語も見られるようになり、T2DMは“コントロールする疾患”から“手術で治療する疾患”となる時代が来るかもしれません。今後、LSGを施行したT2DM患者の長期成績を詳細に検討していきたいと考えています。

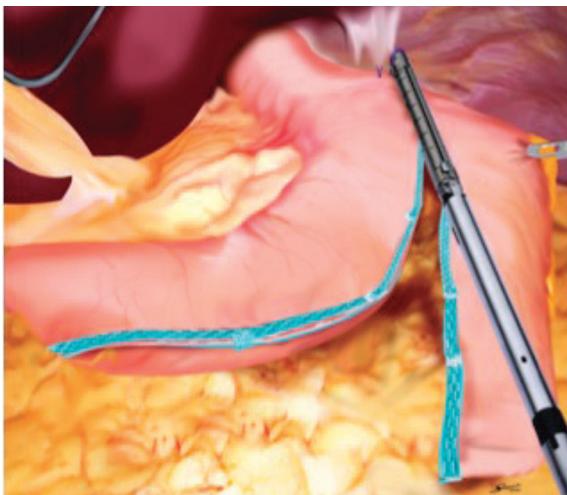


図1 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（LSG）

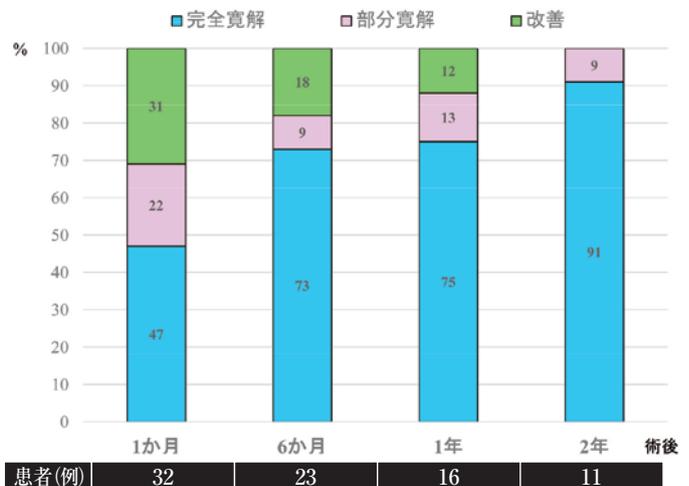


図2 LSGにおける2型糖尿病の改善率